

32. 相手の話に共感し心に寄り添ってありのまま 受け止めて聴く

グループ名 傾聴ボランティア「おおぶ」

代表者 清水 妙子

① 活動の目的

高齢者福祉施設、障がい者福祉施設、外出がままならなくなった人の家を訪問し、相手の語りを受け止め、さらに安心して話せるように聴くこと（傾聴）により、「ともにいる」ことの中で、少しでも穏やかな生活を送り、笑顔になっていただけるよう活動している。また、ボランティアを行う者もボランティアを行うことで、自分の存在価値を自覚し自尊感情が高まるという効果がある。

② 活動概要

大府市内福祉施設及び個人宅からの傾聴ボランティア派遣の要請は増え続けており、傾聴することによる心の支援活動の必要性はますます高まっている。傾聴活動をとおして施設利用者との信頼関係が構築され、生き生きとした表情で一生懸命に語られる施設利用者の姿も増えており、傾聴活動の意義・効果は大きいものと考えている。現在の活動状況は、先述のように増加しており、最近では月の延べ活動人員が60名近くまでになっている。その為、現在の会員数では今後も増加していく傾聴ボランティア派遣要請に応えられなくなる恐れがある。

「傾聴」は単に聞く（聞き流す）ことではなく、話す人が自由に自分を表現することを促進するような言語的、非言語的なメッセージを送りながら聴くことです。傾聴の基本的態度である「相手の話を決してさえぎらずに、常に肯定的関心を持って耳を傾け続ける」ことです。

今回、傾聴講座を開催するに当たり、「傾聴ボランティア養成講座」とすると、ボランティアになることが条件のようなプレッシャーを与えてしまい、講座の参加人員が減少するため、あえて養成講座とはせずに、傾聴の意義と基本的態度を学ぶ「人間関係を良好に保つ傾聴入門講座」として、開催日時は日曜日、参加規模100名とする企画を立て、下記のとおり一般市民を対象として講座を開催した。

記

【講座名】人間関係を良好に保つ傾聴入門講座

【講座の企画内容】

①傾聴の基本的な心構え、②傾聴スキルを使っての対話訓練（ロールプレイ）、③認知症高齢者への傾聴的な関わり方など傾聴の意味と意義を学ぶ、④傾聴による高齢者に対する貢献、ボランティア個人に対する効果（気づき、学習、実践など）、傾聴そのものからの満足

感について。

日時： 平成30年2月18日 10:00～16:40

場所： 大府市横根公民館ホール

講師： 愛知県立大学教授 宇都宮みのり 氏

スケジュール

10:00	開会挨拶：傾聴ボランティア「おおぶ」清水会長
10:05～12:00	話を聴く準備
12:00～13:00	昼食
13:00～14:30	話を聴く必要
14:30～16:00	話を聴く練習
16:00～16:10	集合写真撮影
16:10～16:40	傾聴ボランティア「おおぶ」の活動紹介・質疑応答 アンケート記入
16:40	閉会：傾聴ボランティア「おおぶ」中山副会長

※参加申込み 107名、 当日参加者 97名

③ 決算報告書

収 入	大同生命厚生事業団助成金	100,000円
支 出	講師関係	65,498円
	講師謝礼	60,000円
	講師昼食	2,160円
	お茶・水	693円
	土産	2,645円
	講座開催関係	30,790円
	コピー用紙（講座案内チラシ）	4,869円
	吊り下げ名札（ロールプレイ用100枚）	2,054円
	カード（名前記入用紙100枚）	950円
	サインペン（名前記入用5本）	428円
	封筒（講座資料入れ130枚）	1,154円
	布テープ（配線保護用）	225円
	セロテープ	136円
	カラー画鋏	189円
	蛍光ペン（受付用2本）	259円
	単3乾電池（ワイヤレスマイク用4本）	306円
	印刷代（講座資料130部、垂れ紙2枚）	19,980円
	ラミネートフィルム（駐車場案内用）	240円

事務費	6, 8 4 9 円
FAX受信紙	2, 8 9 4 円
USBメモリ	1, 0 8 0 円
ホッチキス (2 個)	9 3 0 円
ホッチキス針	1 3 6 円
切手	3 6 0 円
写真代 (記録用)	1, 4 4 9 円
合 計	1 0 3, 1 3 7 円

④写真



講座開始時の様子



隣の方との会話



エゴグラムの結果について先生が会場内で説明



二人一組によるロールプレイの様子



講座終了時の集合写真